

次期SIP スマートモビリティプラットフォームの構築

石田 東生
プログラムディレクター候補

2022年8月25日

コンセプト、目指すべき社会像

【コンセプト】

移動する人・モノの視点から、**移動手段**（乗用、大型、小型モビリティ、自動運転、MaaS、ドローン等）、**交通環境のハード、ソフト**とこれらを包み込む**まち・地域をダイナミックに一体化し、安全で環境に優しくシームレスな移動を実現するプラットフォームを構築**する。

【目指すべき社会像】

自由に自立して安全・快適に環境・他人・まちに優しくみんなが、モノが、サービスが移動できるモビリティディバイドない地域。これを負担限度内で実践できるモビリティ産業の効率化と持続性の継続的向上により世界のリーディングモデルを国の政策として目指す

プラットフォームと実現に当たっての社会課題

【プラットフォーム】

スマートモビリティサービスの持続可能な提供に必要なプラットフォーム

- 実証・実装の場である**空間・フィールド**
- **インフラ**（法制度やビジネス習慣、社会的受容性などのソフトインフラ、道路・街路、あるいは都市そのものといったハードインフラ）
- 有機的機動的に連結する**データ基盤・都市OS**
- **ステークスホルダー**（ユーザー・コミュニティ、事業者（交通事業、メーカー、通信・IT系・・・）、公的機関などを包含(inclusion)するという意志)

【実現に当たっての課題】

各地域に豊富に存在するモビリティ資源（自家用車やバス・タクシー等の旅客輸送システム、貨物輸送システムや、新しい交通システムである自動運転システム、グリーンスローモビリティ、電動キックボード等）、**十分に活用されておらず、サービスの普及と公平性が十分でない**ことが課題である。

課題設定と検討の方向性

カーボンニュートラルや、安全性（交通事故死者ゼロ）、経済活力／地域再生、リアルとサイバーの結合、well-beingを追求し、海外との連携などの社会課題に対応するため、以下の4つをサブ課題として、検討を行うこととする。

I モビリティサービスの再定義と社会実装戦略

- 地域モビリティ資源の洗い出しと公共交通のリデザイン
- 新しい移動体の開発及びビジネスモデル ドローン、低速超小型モビリティ
- 種々のMaaSの加速的進展戦略 物流、Cross Sector, Multi Modal

II モビリティサービスを支えるデータ基盤

- 移動／輸送分野でのサイバーフィジカルを連結するアーキテクチャ開発
- モビリティデータの活用方法 V2Xの災害時活用
- モビリティをコアとするダイナミックデータとインフラデータによるデジタルツイン

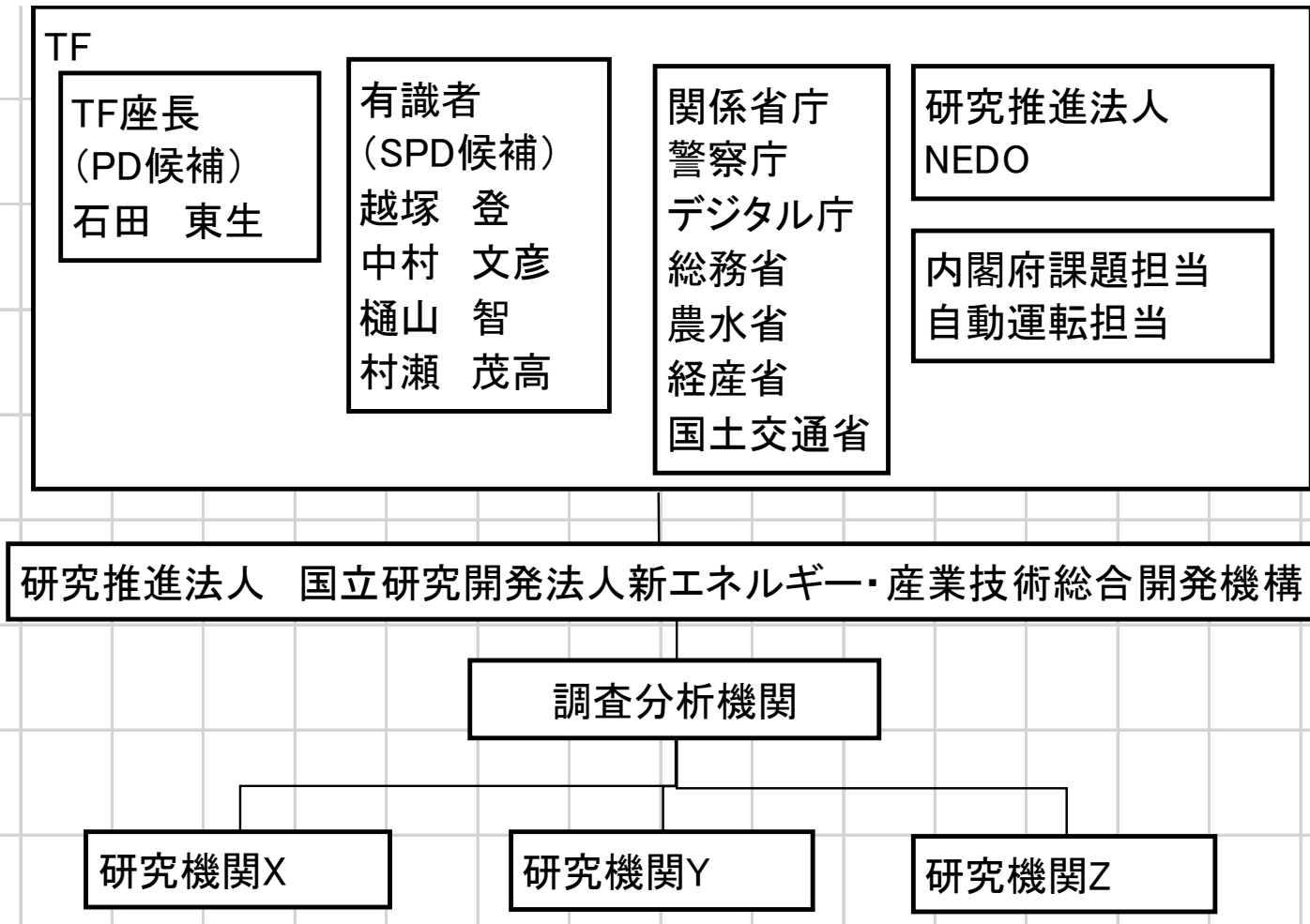
III モビリティサービスを支えるインフラ戦略

- ハードインフラ 街路、ハブ、まちづくり連携
- ソフトインフラ 法制度、ビジネス慣習、コミュニティ形成と態度・行動変容
- スマートモビリティ社会を支える

IV モビリティサービスの社会実装戦略

- コミュニティ形成（データ、モビリティ、ビジネス・・・）
- マーケットデザイン、プレーヤーマッチング
- Technical/ Business/Social/Governmental Readiness Level 概念の活用による社会展開戦略

実施体制について



PD候補とSPD候補

石田東生

都市交通政策、新しいモビリティサービス社会資本政策

越塚登

都市OS, スマートシティ政策

中村文彦

地域公共交通政策、都市政策

樋山智

自動運転システム、コネクティッド

村瀬茂高

モビリティサービス事業、スタートアップ

TFの有識者

鎌田実、葛巻清吾、栗野盛光、野崎秀則、
牧村和彦、山本昭雄、横山利夫

多数の関係省庁

スケジュール

実施項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討TF	▼キック オフ	▼実施方針 ver1.0決定 ※随時更新		▼調査対象 テーマ候補 選定			研究開発 計画案 作成	▼GB研究 開発計画 案審議		▼研究開発 計画パブ ロメ・決定
RFI応募者等からのヒアリング(検討TFメンバー)		検討TFによるヒアリング								
FS調査公募手続(研究推進法人)		▼公募 開始	▼公募 締切	▼採択 決定	▼契約 締結					
基礎的調査(調査分析機関)						調査結果 中間整理		フォロー アップ作業		調査結果▼ とりまとめ
テーマ候補の技術実現性等の調査(研究機関等)						調査結果 中間整理		フォロー アップ作業		調査結果▼ とりまとめ
社会実装に向けた戦略検討(調査分析機関)						戦略素案 作成		フォロー アップ作業		調査結果▼ とりまとめ
研究開発計画書素案作成(調査分析機関)						計画素案 作成		フォロー アップ作業		調査結果▼ とりまとめ

RFI提出大学・企業・研究機関、関係省庁等にヒアリングを実施中
19件ヒアリング済
8月中に7件実施予定

これまでのヒアリング・議論から

- ▶ 分厚いSIP-adus第1期、第2期の実績
- ▶ 技術領域・開発課題並びに、社会実装を見すえた課題認識・アプローチの多様な広がり
- ▶ 熱心、かつ意欲的な取り組み

- ▶ 全部は承継できない 成果・研究集団をどう活用・整理するか
- ▶ ニューカマーの発掘
 - ▶ ピアレビューに頼らないスタートアップ・ニューカマー発掘と支援 コンテスト・ステージゲート方式の活用
- ▶ 戦略的目標設定と撤退も考慮した評価方法とロードマップの作製
 - ▶ 前期・後期。ステージゲート方式は各年ごと。
- ▶ S I P 課題候補間の連携
 - ▶ 全体連携 データ連携、OS
 - ▶ エネルギー、インフラ、防災、エコノミー、・・・

FSの内容

【基礎的な調査】

現在のスマートモビリティやプラットフォームの現状について調査し、各種モビリティが十分活用されていない原因、国内外の技術開発動向・政策動向を調査し、RFIを踏まえて取り組むべきテーマとプログラムの実施方法を検討する。

【研究開発テーマ候補の技術実現性等調査】

基礎的調査やRFIの応募者からのヒアリング等を通じて、各サブ課題において個別に検討すべき中核的な研究テーマを抽出した上で、各テーマの技術実現性、事業性、社会的受容性に係る調査を行う。

今後のF Sの進め方

- ▶ 調査実施機関決定まで
 - ▶ P D候補・S P D候補・事務局会議（コア会議） 2－3回
 - ▶ サブ課題と調査テーマの再検討・再整理
 - ▶ スタートアップ・ニューカマーの発掘と支援策
 - ▶ 調査実施機関への指示事項の検討
 - ▶ サブ課題と研究テーマの深堀方向と程度、重要プレーヤーとの連携・連絡
 - ▶ 時間軸 PCを考慮して年内計画と年度内計画と達成目標
 - ▶ 海外調査と発信
- ▶ T F会議（1回程度） コア会議の検討結果へのコメント
- ▶ 調査実施機関決定後
 - ▶ 直後 体制とコミュニケーション方法の確認、時間軸の確認
 - ▶ サブ課題と研究テーマごとに認識・課題意識・情報のすり合わせ
 - ▶ R F I、インタビュー結果の共有と意見交換
 - ▶ 個別の深堀作業への指示（修正・追加など）
 - ▶ 適切なタイミングでT F会議への報告と意見交換